

(別紙4-1) (ユニット2)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197600356		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホーム ハートの家六番館		
所在地	石狩市花川北6条3丁目16番地		
自己評価作成日	平成24年11月18日	評価結果市町村受理日	平成24年12月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北 1 条西 7 丁目 1 番あおいビル 7 階
訪問調査日	平成 24 年 11 月 30 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成24年3月にオープンし、入居者様は近郊（石狩市花川）に住んでいた方が多いです。そのため、一年を通しての行事や観光、昔の石狩の様子などを入居者様やご家族様に教えていただく姿勢が、自然と現場のほうでも生まれます。入居者様9名（女性6名・男性3名）と職員7名で構成されており、とにかく入居者様もスタッフも元気をもらい合いつつ楽しんで生活する雰囲気心がけています。また、日替わりのように毎日誰かのご家族様が来訪され、居居よりも食堂にて職員や他入居者様と一緒にお茶をしながらお話をする空間になっており、スタッフとご家族様の距離もすごく近く感じます。今後は、地域の特色を活かしつづさらに入居者様が充実して生活を送れるようなことを展開していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

有限会社 ふる

有限会社 ふるさとネットサービス

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	オープン前の職員研修において、当法人の介護理念およびコンプライアンスルールを学ぶ。オープン後も勉強会やミーティングを通じ【共に感じる】【共に生活する】ことで、入居者様にとって居心地よい場所になることを目指して取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	6月に入居者様・スタッフが町内会の花壇作業、7月～8月の地域イベントへ参加した。また、ホーム主催の居ベントにおいて入居者様一人ひとりに準備を手伝っていただき、町内への案内チラシと一緒に配るなどし、周辺住民とのつながりを築いてきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自己評価項目～2にも関係するが、周辺住民と関わる機会を積極的につくることで、ホームに入居者されている方と顔なじみになることが第一歩と感じている。また、2ヶ月に1回実施の運営推進会議においても、認知症の理解と支援アプローチについてお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、ご家族様・周辺住民の方・包括の方で意見交換を行っております。ホームからは地域行事や特性などについて、ご家族様からはホームのとりくみに対する意見を聞く機会となっています。地域の方は意見こそ少ないですが、会議に参加していただくことでグループホームを知るきっかけになっていると思います。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に高齢者福祉課の方が毎回参加され、取り組みと意見交換の状況を共有しています。また、地域包括支援センターから介護相談員さんが訪問され、スタッフや入居者様と談話する中で、悩みや不安、施設の改善点を知るきっかけとなっています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人において権利擁護指針・虐待の5種類をもとにスタッフへ研修を行うとともに、言葉使いや介護する上での姿勢など、リーダーからの報告および管理者の定期的現場巡回を通じ、小さな事案でもスタッフと振り返るようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止の委員会に参加した職員が、現場スタッフに伝える仕組みをとっている。現状として、フロアミーティングの際伝えてはいるが、認知症ケアの理解があつてはじめて身体拘束がなぜNGなのかを理解できると感じる。まだそこまでには至っておらず。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人研修や定期的ミーティングを通じ、法人の理念と通じてコンプライアンスルールの考え方を学び、日頃のスタッフ自身がとっている言動を振り返ってもらう機会をつくることにより、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時に施設サービス内容や利用料金の概要について説明し、入居が決定してからは改めて入居契約書の読み合わせを通じて、疑問や不安点を解消するよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人やご家族様の意見は、ホーム職員とのやりとりだけでなく、介護相談員さんの訪問、運営推進会議での意見交換、また、フロアに意見箱を設置しご意見をいただくよう取り組んでいる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングだけでなく、定期的に管理者と職員が1対1で面談を行っている。面談の内容は、業務のふりかえりや、施設として個人としての今後の目標をすり合わせるのが目的。また、それ以外にも職員の健康状態や職場の業務改善などの話にも至るなど、不安や悩み解消の大きな機会となっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況においては、残業・休みが多い場合は実情を把握するなどし、本人と会社が望む改善方法を模索する。また、上司は部下に対して指示のやりっぱなしにならないよう、進行状況を聞き、必要ならば目標を達成できるよう支援することを、管理者およびリーダーは意識している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オープン時は職員全体に対して、認知症ケアや高齢者との接し方などのレクチャーをしていたが、オープンして半年が経過した現在は、職員の能力に個人差がみられる。そのため、能力や役割ごとにグループ分けをしたうえでグループ内での勉強会を行っている。また、外部研修に参加した職員は、参加できなかった職員とも情報共有するために内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会は現在のところ少ない。法人内で感染症予防の研修会を行った際は、総勢60名ほどの法人内事業所職員が集まった。単に知識の共有だけでなく、別事業所の取り組みも個々の会話で行えたことが学びになったとの声もあった。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーが事前にご家族様や本人から、ホームに入居する上での要望・不安などを聞き、その後カンファレンスを通じてスタッフと情報共有している。そうすることで、入居者様に不安の無い生活を送ってもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から、以前の生活の中で大変だった事などをあらかじめ聞き、ホームでの対応に生かし、ご家族様と信頼関係を作るよう努めている。具体的には、入居前見学、自宅訪問の際に、1～2時間ほど本人やご家族様からお話を伺い、ご家族様に協力していただく部分や、ご家族様の願いなどを十分に聞く時間をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	病院でのリハビリや訪問看護など外部サービスを利用したことはないが、同じ建物内の小規模多機能サービスで一芸ボランティア訪問がある際は、一緒にイベント参加し楽しんでいます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で手伝いをしてもらったり、一緒に食事作りをしてもらっている。（主に食材の皮むきなどの下ごしらえが中心。）春先にはちぎり絵作業を行い、入居者様が協力しながらとても生き生きと作業していました。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様来訪時には、現状を細かくご家族様に伝えていくとともに、本人の事でわからない事などを聞いたり、アドバイスをもらいケアに活かしていくなど、ホームとご家族様が一緒にとりくんでいる関係をつくらせている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が以前行っていた場所や人間関係を把握し、ご家族様協力のもと、その場に行けるよう努めている。ただ、現状としてADLや認知力の低下とともに、当初外出されていた場所にも行けなくなってきたケースが増えてきている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士でオセロゲームやトランプをやりながら楽しんでもらえるような雰囲気作りを心がけている。しかし、今のところ継続して（習慣として）取り組めていないのが現状。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までに退居した例は1件のみ。新しく住まわれる施設に対して、介護添書をお渡しするだけでなく、何かお困りの時に連絡・相談してくださいとお伝えするなど、退居者やそのご家族様・転居先の施設にも配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族様とお話し合いの元、できる限りそうよう努力し、困難時の場合も検討し近づけるよう努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族様また関連事業所より情報を頂き、これまでの暮らしについて把握できている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	総合記録シート(入居者様個人日誌)に記載し、総体的に現状把握に努めている。シートでは、水分・排泄・食事量の日トータルおよび一週間の動向が一目でわかるようになっている。今後は、入居者様の言動や職員が対応した際の反応など詳細を記載する努力が必要と思う。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様からの情報・意見に基づき、センター方式を活用。必要時や定期的にモニタリング・検討会議を行っており、ご本人・ご家族様連携のもと介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	総合記録シート・センター方式を活用し情報共有・見直しを行っている。一方で、出勤した職員は引き継ぎノートの情報だけでなく、口頭でノート内容およびそれ以外の情報を確認することを意識徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族様からの情報・希望にあわせ、その時々ニーズに対し努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源については、開設1年未満ということもあり試行・努力している大きな課題の中のひとつである。現段階としては、町内花壇作業やクリーン作業への参加、またはホームの夏祭り案内を地域の戸建住宅に一件一件配るのを入居者様とともに行うなど、地域にホームのことをしていただく取り組みをすすめている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様のご希望に合わせた取り組みを行っている(往診希望・地域の病院への受診希望。)また、主治医との連携・相談をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームにおいては看護師は在中していないため、入居者様の体調不良時には、往診病院や外来受診病院に電話（あるいはFAX）でご相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	既往歴および現病歴などの基本情報は、通院台帳ファイルにまとめており、週単位で生活状況をまとめている総合記録シート（入居者様日誌）とともに医師への報告ツールとしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時アセスメントの際、かかりつけ医師とご家族様とホーム管理者が今後の方向性について協議しており、その際には（ホームで対応できる許容範囲の確認）と（病状が悪化した際の入院先）など、できるだけ事前に想定することを心がけている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの備え、その使用方法など訓練を行った（8月）。また、急変時の対応マニュアルを作成し実践している。だが、現状としては急変・事故に遭遇したケースが少ないため、今後定期的なシミュレーション機会が必要に感じます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署および地域の方に協力してもらい、災害時に備え定期的に避難訓練を行っている。（年に2回）だが、現在まだ地域との協力体制を含めた避難訓練を行っていないため、今後必要と考える。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を重視し、一人ひとりの気持ちに寄り添った言葉かけをこころがけている。また、プライバシーの確保もこころがけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との信頼関係を築けるように努めている。利用者様が安心して話せる雰囲気、環境作りを行っている。ただ自分で決めてもらうということではなく、外出レクやお手伝いにしても、みんなやるから遠慮なく一緒にやりましょうという雰囲気の中での自己決定を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様それぞれの価値観やニーズを把握するように努めている。また、利用者様の自己決定を尊重するように心がけている。ただそうになると、部屋にこもりつきり（ずっと部屋で眠りっぱなし）になりがちな入居者様もいるため、ニーズに沿った活動をもっと見出したい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択は本人の好み・生活習慣を優先し、利用者様にとって安楽な衣類であることも考慮している。できるだけ同じ服を毎日着ることがないように、翌日着る衣装の事前セッティングをゆとりをもってご入居者様と一緒に行っていきたいと思っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の下ごしらえや、別フロアから食材をいただいきたり、皿を並べたり、おしぼりを用意していただいたり、食器拭きを手伝っていただいたりなど、入居者様のプライドや自信喪失することがないように配慮しながら共同作業して頂いており、笑顔が多い。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別のニーズに沿った食事形態を取っている。中には、水やお茶などの水分摂取ができない入居者様もいらっしゃるが、本人の嗜好にあった飲料、またはゼリーなど食べれる形態でとれるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様にお声かけはしているが、毎食後だと負担に感じる方もいらっしゃるため、現在は朝と夕食後の2回口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立でトイレでの排泄が出来ない方については、少なくとも3～4時間に1回トイレへ誘導し排泄機会を確保している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期処方されている下剤に頼るだけでなく、食物繊維のある食材を献立に盛り込むことを意識したり、日常座りっぱなし・寝たきりにならないよう、スタッフと一緒に手伝いをさせていただくよう活動機会をつくっている。また、乳酸菌飲料も定期的に摂取していただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	必ず入居者様には、入浴するか否かの確認を行ったのちに入浴していただく。無理強いでは入浴が楽しいものではなくなってしまうため、1日3人ほどの入浴を毎日ローテーション組む事で、一人あたり週2回の入浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様が寝たいと言ったり、眠そうな様子ある際は部屋で休んでいただく。日中ずっと眠りっぱなしにならないように、1～2時間を目処にすっきりした気持ちで離床できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく処方された薬については、通院担当者から情報を聞き、薬の作用や留意点などを理解するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の能力によって、食事作りの手伝い、掃除、買い物へ一緒にでかけるなど、それぞれの役割を実感していただきながら生活できるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様から「今すぐに買い物いきたい」などの要望がある際は、すぐに対応できない場合も多い。だが、事前に予定を組んでいる外出レク・外食レクについては実現できている。家族様と一緒に外出されることも時折ある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実情として、本人がお金を管理する機会はない。管理者が管理して、必要に応じて出金している。「買いたいものは特になから、お金をもつ必要がない」とおっしゃる入居者様が多いが、外食時は「お金管理してないから、いつもごめんね」とおっしゃる入居者様もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様が電話で会話することが難しいため、ご家族様が代わりに電話をする場面が多い（耳が聞こえずらかったりする）。そのほか、特に電話や手紙のやりとりを希望する入居者様がいないため、職員からそれを促すことはしていない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の配色は柔らかない色調で、壁には入居者様による作品やちぎり絵を展示している。さらに、外出レクの思い出写真や、日常風景などを廊下に展示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりに席があり、ゲームをしたり話したり、テレビを見たり、思い思いに過ごせている。食堂の中央に大きなテーブルがあり、そこに女性中心とした5名が座ってテレビをみたりおしゃべりしている。その他3名はそれぞれ窓側、職員のそばに1人席で座っており、耳の遠さや介助頻度に配慮している。もう1人については、本人集団苦手なため部屋食となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際は、普段使いなれた茶碗をはじめ、できるだけ普段から使っていたものをそのまま持ち込んでいただくようご家族様には呼びかけており、それぞれの居室は個性あふれている。それでも入居時の持ち込みが少ない場合は、入居してからの思い出写真の展示や、家具を無償でお貸しし、できるだけ殺風景な空間にならないよう心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや歩行器などの歩行補助備品のほか、トイレの案内板をわかりやすく表示している。車いすが利用しやすいテーブルやスペースは十分確保されている。トイレで排泄するという行為がわからない方もいらっしゃるが、職員との日々の信頼関係のもと、定期的にトイレへご案内する対応をとっている。		